

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：八谷文策

実施場所：福島県南相馬市

実施日：8月5日・6日

■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）

東日本大震災の被災地に直接入ることによりその復旧状態を知る。

8月4日前泊にて仙台市名取のホテルに入る。そのホテルは除染作業などの現場作業が進むように、作業員が宿泊される為に急遽作られたもので、一部屋毎の出来合いの部屋が、平面に150部屋繋げられていた。説明によると着工後4ヶ月で出来たとの事である。その様に仙台空港周辺でもホテルが無い。有るとしても作業員優先の急造ホテルである。

5日、南相馬市役所職員の案内で現地を視察。海岸に近い部分を視察。ほとんど手付かずのまま、取り敢えず流された大型ゴミのみ取り除かれていた。福島原発20キロ範囲内は立ち入り禁止。20キロから25キロは居住禁止。それ以降は住むことが可能とされていて、復旧が原発事故のため全く前に進めない状態である。もし、この災害に原発がなければ、既に復旧作業は完了して元に戻っているはずであると同時に、避難した人達が元の生活が出来ていたものと、原発事故に対して意気通りを感じた。

南相馬みらい創造塾について、担当職員より説明を受ける。今、2年目でまだ結果は出ていないが毎年25人から30人が参加するが、卒業は7人から8人であり、その卒業生が次の年度の塾の指導者に成っていく。市長の提案であり、市長が塾頭になる。更に継続して行く。その後、南相馬市のホテルに宿泊。このホテルも災害復旧作業員が宿泊する為の急造ホテルで、各部屋にはバス・トイレ無しで、いかに多くの人を宿泊させるかのホテルであった。

6日は、「新田川温泉ゆっさ」の薪ボイラーを視察。この施設は18年前に民間の有志による市民株主より9,000万円の出資により設立し、重油ボイラーにより始める。10年前は45円/ℓであったが高騰したことにより、研究の結果地域の林業振興を考えてガシファイアの薪ボイラーとした。1、森林整備加速化・林業再生基金事業により1/2の補助金が出る。2、近くの製材所に間伐材が山積みに残っている。製材所の用地内に作業地及び材の保管をして貰える。3、製材所まで約2キロ程度で近い。4、製材団地で燃料が枯渇することが無いと考えられる。問題点は災害の後、焼却灰の処分経費に高い数値が出ている。しかし、市民及び作業の人達の為再開している。

6日午後、市職員により災害廃棄物処理場を視察。田に残されたもの6万5千トン、その他の処理物5万トンの処理を済ませているが、原発の除染問題で最終処理の目処が立たない。

■参考とすべき事項

今回は災害復旧が主目的の為、参考にすることは無いが、如何に原発の事故が多くの人々の生活を奪ったかを目の当たりにした。また、薪ボイラーに付いては庄原市にも利用出来るものと思われるので参考にすべきである。

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

この構想は、都市型の団地のモデルとして捉えることは出来ても、農村部に当てはめることが出来ないため、庄原市ではその精神を取り入れることは出来ても実態は合わない為、機能、考え方を勉強したにとどまる。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所：福島県南相馬市内各所	実施日：平成27年8月5日～6日
<p>■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>南相馬市は震災の被害だけでなく、原発事故により、未だに復興という言葉が使えない状況下にあります。そんな状況を打破すべく、桜井市長が先頭に立ち、「南相馬みらい創造塾」を昨年5月17日に開講されました。それは、新たな視点から「まちづくり」を考えようとするものです。ですから、既成概念に囚われない自由な発想こそが重要だとおっしゃっています。市長の開講に当たっての挨拶に、「復興を目指して生きていくことは大きな財産となると信じている」、「若い人が人生をかけてやる価値があると気づいて欲しいという思いで開いた」と。庄原市も今がチャンスと捉える発想が必要だと感じます。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>南相馬市内の状況を先ず視察させて頂いたのですが、原発事故というものが、これほど酷いものとは想像していませんでした。自宅が残っていても住めないゴーストタウン化したまちには声を失いました。未だに2万人からの人が避難している中で、みらいを見つめてまちづくりを考えようと手を挙げた若者たち。国の責任ばかりを責めても南相馬市は元気にはならない。国からいくらお金がやってきても、避難している若い人たちにとっては、南相馬市は原発事故のまちと映っているのです。そういう人たちへの情報発信、あるいは、全く南相馬市に縁のない人への1ターンの誘い。壊れた建物等は、創り直せますが、壊れた住民組織等のソフト部分の再構築は、住む人が居なくなった訳ですから、大変です。ましてや、被爆状況で線引きされていることの心情は察するに余りあります。</p> <p>そんな南相馬市の現状を考えれば、本市の置かれている状況は、知恵を出せばいくらかでも解決できる程のものと思えてきます。お金では解決できないことは、感性に訴えることで、「やる気」や「思いやり」が生まれ、「かがやき」と「やすらぎ」に昇華するのではないのでしょうか。最後は、人間の力をどう活かすかが決め手だといえます。</p>	
<p>■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>今回の視察で南相馬市内に1ヶ所しかない温泉施設の薪ボイラーの視察にも行ったのですが、夏休みということもあり多くのお客さんで賑わっていました。震災から42日目には営業を再開し市民に喜ばれたそうですが、指定管理かと思いきや、経営は一般市民が株主の会社だそうです。</p> <p>本市の課題である森林資源の活用策のヒントとなる薪ボイラーを発見した気持ちです。ガシファイアという二次燃焼できるガス化ボイラーで、非常に優れものです。例えば、重油ボイラーでお湯を沸かしている温泉施設に設置すると、重油に比べると燃料費は半分程度になるそうです。既設の重油ボイラーは万一の為のバックアップで残しますから、薪ボイラーを増設というイメージです。本市で進めている木の駅から出る間伐材を燃料とすれば良い訳ですから、補助金を出すことなく薪に加工したものを12000円/t程度で購入しても十分に採算は合います。そして、このボイラーで冷暖房もできます。先ず手始めに、西城の温水プール、西城市民病院に導入してはどうかと考えています。木の駅構想も動き始めている西城には最適な事業ではないのでしょうか。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成27年8月11日

調査・研修報告書(会派個人用)

報告者：徳永泰臣

実施場所：福島県南相馬市市役所ほか 新田川温泉はらまちユッサ	実施日：平成27年8月5日～6日
■目的・課題・問題事項 ○東日本大震災、南相馬市の現状と課題 ○南相馬みらい創造塾の取り組みについて ○はらまちユッサ、バイオマス薪ボイラーの調査	
■参考とすべき事項 ○3・11の地震、津波により、福島第一原発の事故を受け、現在も20* ₂ 圏内の警戒区域、30* ₂ 圏内の計画的避難区域及び緊急時避難準備区域、そして30キロ圏外と国によって設定されている。 未だに我が家に帰れない人々、我が家に帰れても夜泊ま る事ができない人々、東京電力、国によって少しの補償はあっても、目に見えない放射能による不安、圏内、圏外の人々との格差など、いまだに色々な問題を含んでいる。 復興は、放射能被害のない地域は着実に、一步一步進んでいると言う認識でございましたが、実際、放射能被害の地域では復興はほとんど進んでいない状況であった。 瓦礫の処理も、地元の方々が手作業で仕分けされておられ、気の遠くなるような作業でありました。そして、放射能汚染された瓦礫の処理、除染作業によって出た汚染土など現在は、中間貯蔵施設に仮保管してあるが、この処理の問題など放射能被害の広がりには計りしれない。 ○南相馬市を復興から、新しい街づくりをしていく為に南相馬みらい塾を作られ、学生、会社員、医師、農業者、僧侶など多種多様な塾生たちにより、著名人を講師として、若者による新しい街づくりについて考えられている。 ○バイオマスガス化燃焼ボイラーを導入している、南相馬市のはらまちユッサを視察に行きました。ここは基本行政に依存しない、民間パワーで会社を立ち上げ、住民のニーズに応えたいといった思いで出資を求めて9000万を集められ、残りは銀行からの借り入れによって始めた。当初は重油ボイラーで始めたが、重油価格の変動が経営を圧迫した。重油は価格の変動が激しい、チップは価格が高いなどの理由から薪ボイラーを選択された。 バイオマスガス化燃焼ボイラーは800℃の一時燃焼、そして1200℃の二次燃焼により温泉を循環する効率も良く、月に10m ³ 、年間約120m ³ の薪で賄える。 東日本大震災時に被災者からの要望が多かったのが風呂であった。そのため、はらまちユッサも震災で被害に遭っていたが、43日目に復旧させた。山間部で放射線量も高かったが、そんな事にかまっていられなかった。	

■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）

○本市も島根原発から30キロ圏内の地域もある、先日から川内原発再稼働のニュースが連日のように流れている。原子力規制委員会は国の示した基準を満たしているとの理由で川内原発再稼働を認めた。しかし安全を補償するものではないと言った見解でる。国は原子力規制委員会が認めたといい、事故がおきたら責任は何処にあるのか？明確にしてからの再稼働が必要ではないのか？

又、現在1万2500tもの核廃棄物の処理の問題、この事を解決しないままの再稼働は認める事は出来ない。

今後も国の政策を注視しつつ、ドイツのように原発の廃止、それに替わる再生可能エネルギーの推進について提言しつづけていく必要がある。

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 五島 誠

実施場所：福島県南相馬市	実施日：8月5日、6日
<p>■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南相馬市の現況と復興に向けた課題 東日本大震災のその後に目を向けると少子高齢化、人口減少問題の解決への糸口があると言われている。そこで今回被災された福島県南相馬市へお邪魔し、現況と課題について調査を行った。 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・震災だけではなく、原発事故による被害とその後の復興の遅れ 南相馬市には現在も夜間宿泊禁止の地域もある。その地域は未だインフラの未復興やさらには、津波被害で壊れた家屋がそのまま残っていた。震災だけならもっと早く復興に向けた取り組みが出来たが原発事故によりそれもかなわず、現在帰りたいと思っている方が帰れる頃には時すでに遅しとなる可能性が大いにある。インフラ整備(この場合復興)が完了した時には住む人が誰もいない状況。 ・南相馬市復興総合計画 震災前の施策目標を見直し、新たな総合計画を復興計画として策定した。目標人口などを分析し人口規模の維持、バランスの良い人口構造へと改善する事を目指している。特に高齢人口は震災前26%から35%まで一気に跳ね上がっており、若い世代の帰郷が課題である。ハード面の復興も大切だが、それ以上にソフト面やコミュニティの復興が大切だと感じた。 ・南相馬みらい創造塾 課題はチャンスととらえ、活力ある南相馬を創造するために作られた、市長が塾長の学び実践の場。これからを担う若者を対象に著名人を講師に迎えた講演や意見交換会や、実際に事業に取り組んでいる。市職員も参加し、一市民の立場から現状のサービスがいいのか見直す機会にもなる。 実際にこの塾の中で生まれた事業を予算化する動きもある。 ・高速道路のSAに道の駅「セデッテかしま」 ・薪ボイラー「ガシファイアー」 	
<p>■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直想像以上に復興が進んでいない現状があると感じた。まだまだこれからであり、国としてもっと出来る事を応援していかなければならない。特に原発による風評、これを本当の意味で解消しないといけないし、やはり原発というものの恐ろしさを強く感じる。 また、この町の課題は見方を変えるとそのまま庄原市に当てはまるものであり、今後も引き続いてこちらの動向を調査していく必要性を感じた。 ・みらい創造塾はすぐにでも庄原でも取り組んでみればいいのかと思う。これからの人材を市を挙げて育てていく、そこは共通認識として課題共有できていると思う。それにより多様な考え、ネットワークを構築し未来の庄原を創造していくべきである。 	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。